

Opera Sonezaki

To commemorate the 101st anniversary of the late composer Yoshio Iino (1921-1980), who was one of the first to introduce the 12-tone technique to Japan and practised it himself, and who laid the foundations for the development of contemporary music in Japan in the second half of the 20th century, a chamber opera

"Sonezakishinju" (based on a story by Monzaemon Chikamatsu), one of his major works from the last years of his life, will be presented. Performed in concert style. The core of this commemorative concert is the chamber opera "Sonezakishinju".

此の世のなごり、夜もなごり。

死に行く身をたとふればあだしが原の道の霜。

オペラ そねざきしんじゆう

演出：野澤美香

日本にいち早く12音技法を紹介し、自らも実践、20世紀後半の日本の現代音楽発展の礎を築いた作曲家、故入野義朗（1921-1980）の生誕101周年を記念し、氏の晩年の代表作である室内オペラ「曽根崎心中」（近松門左衛門原作。コンサート形式での演奏）を核とする記念コンサート。



日時：2022年11月24日（木）

18：30 開演（開場18：00）

場所：東京文化会館小ホール

入場料：全自由席 一般5,000円／学生3,000円

主催：NPO法人JML音楽研究所理事長 入野禮子

企画：故入野義朗生誕100+1周年記念コンサート実行委員会
古川聖（代表）、吉村七重、野澤美香、入野禮子、入野智江

マネージメント：keynote

後援：日本作曲家協議会／日本現代音楽協会

助成：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション
公益財団法人 朝日新聞文化財団

故
入野
義朗

生誕100+1周年記念コンサート

Opera Sonezaki

.....最晩年に、

現代音楽と日本の古典人形浄瑠璃との接点において構想・作曲され、没年に初演された室内オペラ「曽根崎心中」は、入野が“伝統”に正面から対峙した渾身の音楽表現である。脈打つ創作意欲にあふれる本作に対し入野は語る。「伝統となりうるものは、常にその時代の前衛でなくてはならないと思う。[中略]“新しさ”さえもないような作品が創作の名に値するはずがないのである」(入野義朗「創作オペラの可能性について」1980)。



Programme

入野義朗：フルート、ハーブ、打楽器のための「シュトレームンク」-1972-

フルート：木ノ脇道元 ハーブ：木村茉莉 打楽器：宮本典子

入野義朗：アルト・サクソフォンと箏のための「協奏的二重奏曲」-1979-

アルト・サクソフォン：大石将紀 箏：中島裕康

.....

「曽根崎心中」のための前奏

真言宗豊山派聲明：孤嶋由昌師 孤嶋泰凡師

入野義朗：室内オペラ「曽根崎心中」(原作：近松門左衛門、演奏会形式)-1979-

指揮：佐藤紀雄

語り：竹沢嘉明 お初：工藤あかね

徳兵衛：大槻孝志 九平次：小鉄和広 鬼火：入野智江

太棹：田中悠美子 尺八：村澤丈児

フルート：木ノ脇道元 ヴァイオリン：甲斐史子

打楽器：宮本典子 ピアノ：田中翔一朗

演出：野澤美香

入野義朗 Yoshio Vladimír IRINO (1921-1980)

ウラジオストク生まれ、43年東京帝国大学経済学部卒。在学中に諸井三郎氏に音楽理論を師事。

46年柴田南雄、戸田邦雄らと「新声会」を結成。桐朋学園音楽科設立に参加し、60年より同理事。

文部省視学委員他や音楽著作権協会等の諸役員を務める。

日本現代音楽協会及び日本作曲家協会の委員長。二十世紀音楽研究所を組織し軽井沢現代音楽祭を開催、海外の新しい動向を紹介。20C音楽をたのしみ会、パムジーク・フェスティバル、アジア作曲家連盟、JML セミナーなど多くの組織や企画に関与。

代表作に「小管弦楽のためのシンフォニエッタ」(53年毎日音楽賞)、「2つの弦楽器群と管・打楽器群のための合奏協奏曲」(57年尾高賞)、テレビ・オペラ「綾の鼓」(62年ザルツブルクオペラ大賞)、「2本の尺八とオーケストラの為のWandlungen」(73年クーセヴィツキー財団委嘱作品)、室内オペラ「曽根崎心中」(79年)等。

没後、入野賞(80年)やACL入野義朗記念作曲賞(81年)が設立、従五位勲四等旭日小綬章が追授される。

NPO 法人 JML 音楽研究所

1972年に作曲家故入野義朗と妻高橋列子(入野禮子)等により「JML セミナー」を設立。団体名を何度か変更し、2010年にNPO法人となる。<広く世界の伝統音楽と民族芸能の理論と技術を極めると共に現代に生きる音楽を学び発表する場を提供する>を目的として、音楽教育に関する幅広い講座や「日独青少年交流コンサート」等の主催公演、「ウラジオストク・ピエンナーレ」等への協力事業を行う。

故入野義朗生誕100+1周年記念コンサート実行委員会

門下生であった作曲家の古川聖(委員長)、作曲家の野澤美香、さらに入野作品を数多く手がけた箏の吉村七重を中心にインド古典劇演者の入野智江、JML音楽研究所理事長の入野禮子により運営されている。

●チケット取扱い

東京文化会館チケットサービス…03-5685-0650 (オペレーター対応)
営業時間 電話 10:00 ~ 18:00 窓口 10:00 ~ 19:00 (休館日を除く)
Web <http://www.t-bunka.jp/>

keynote…メール問合せ keynote_music@fol.hi-ho.ne.jp
Fax 0422-44-1165